

『第7期中央区自立支援協議会』

障害者（児）サービス部会
報告書

令和4（2022）年2月

委員名簿

| 役 職 | 氏 名 | 所 属 団 体 |
|------|--------|--------------------------------|
| 部会長 | 田村 克彦 | レインボーハウス明石 施設長 |
| 副部会長 | 山崎 一成 | ポケット中央 (令和3年11月末日にて任期終了) |
| 委員 | 水田 博子 | ポケット中央 (令和3年12月1日から部会委員に任命) |
| 委員 | 前場 京子 | 中央区心身障害者・児福祉団体連合会 副会長 |
| 委員 | 佐野 美恵 | 中央区民生・児童委員協議会 |
| 委員 | 濱川 浩子 | 区民公募 |
| 委員 | 竹ヶ原 妙子 | 区民公募 |
| 委員 | 鈴木 佳 | 中央区障害者就労支援センター |
| 委員 | 島田 有三 | 中央区立福祉センター 基幹相談支援センター |
| 委員 | 佐藤 勝 | 区職員(福祉センター支援係長) |

計9名

部会のテーマ・検討内容

1. 第7期障害者(児)サービス部会の検討課題について

「障害のある方の地域での生活を支援するためのサービス及び支援体制について」を本部会のテーマとし、第6期に引き続き、障害のある方の身近な困りごとを事例等で挙げながら、支援の充実に向けて協議、検討を行う。

また、今期の障害者(児)サービス部会では、第1回の書面開催時に各部会委員から意見票でいただいた「地域での生活を支援するためのサービス及び支援体制」、「地域生活支援拠点の整備」、「感染症対応」、「防災、災害時の対応」ごとの意見や提案を踏まえ、検討を進めていく。

開催日時・議題

| 開催回 | 開催日時 | 開催場所 | 議題 |
|-----|---|-----------------|---|
| 第1回 | 通知文発送日 令和3年8月5日(木) 意見票提出締切日 令和3年8月19日(木) | 書面開催 | ① 部会委員の委嘱状の送付 ② 第7期の部会運営スケジュール ③ 検討事項、意見・提案のための意見票の送付 |
| 第2回 | 令和3年 11月24日(水) 15時15分 ～17時15分 | 福祉センター 2階 食堂 | ① 副部会長の選任 ② 部会委員からの検討課題を踏まえた意見・提案の紹介 ③ 意見交換 |
| 第3回 | 通知文発送日 令和4年2月3日(木) 意見票提出締切日 令和4年2月14日(月) | 書面開催 | ① 令和3年度第2回障害者(児)サービス部会議事要旨の送付 ② 障害者(児)サービス部会報告書の送付 ③ 検討事項、意見・提案のための意見票の送付 |

[令和3年度部会中間報告]

第1回部会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、緊急事態宣言下であったため書面開催とした。

書面開催では、今期の会の各委員への委嘱状の送付、部会長の紹介、各委員の紹介、今期の部会のテーマと今後の進め方について確認をしていただき、各委員より意見票により部会の検討事項として、大きく3つの事項について意見や提案いただいた。

(1) 地域での生活を支援するためのサービス及び支援体制について

- ・地域生活支援拠点等整備について、関係機関、団体での考え方の共有や運用のイメージの共有等が必要になっていると感じる。
- ・若い世帯の流入や障害を持つ人の高齢化等に対応したサービスの充実が必要になっている。
- ・老障介護が進んでも、住み慣れた自宅で生活するにはどのような援助をすればよいかや親亡き後の居場所、介助者（ヘルパー等）の確保や育成について議論していきたい。

(2) 感染症対応について

- ・利用者支援において“ゾーニング”“ソーシャルディスタンス”を軸に環境改善と職員配置をした結果、支援する場所が分散し、従来以上に人員配置が必要になっている。「新しい様式」の中で、福祉施設として、サービスを充実しつつもレイアウトを検討し、運営面からも無理のない環境としたい。
- ・コロナ禍の影響により自治会での見守り活動やふれ合い活動が中止となる現状がある。そのような中、各委員の所属される団体や活動を通じて見聞された困りごと、または工夫して対策をしていることについて紹介してほしい。
- ・ご家族が不幸にも感染となってしまった際、見守り機能含めどのような準備をしていくことが必要か、現状を踏まえて意見を伺い、検討していきたい。

(3) 防災、災害時の対応について

- ・今夏も水害等により、緊急時の迅速かつ的確な対応が求められる状況が全国に増えている。地域の防災資源を把握し、ライフラインが断たれた時の供給方法や通信手段、応援体制を再構築する必要がある。

第2回部会

本部会の第1回については、書面開催として、部会長及び各委員の紹介、副部会長の選任、また、今期の部会のテーマと今後の部会の進め方について確認していただいた。

また、意見票で今後の検討事項等についての意見と提案をいただいた。

障害者（児）サービス部会の検討内容等について

(1) 地域生活を送るうえでのサービス及び支援体制

- ・家族単位での支援をすることが重要であり課題である。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大で支援が及ばないことが出てきたが、利用者が適応や順応している様子も見られた。「居場所」は必要であるが、親なき後や緊急時の対応を検討する際にもこの本人の適応や順応する力を強みとして捉える視点が必要。
- ・国の施策では、障害者が施設から地域に戻り生活することが求められているため、在宅でのサービスや支援を充実させていくことが課題。
- ・公的なサービスだけでなく、インフォーマルな資源も利用することができるということを積極的に発信していくことが必要。
- ・親なき後や本人の高齢化等に備え、話が聞き取れるうちに個人の情報収集を行うことで将来の支援も充実させられる。そのために情報収集について「時期、内容、相手」などを示したガイドラインがあるとよい。
- ・多様な関係機関の連携が不可欠であるが、個人情報保護の点から本人の了承を得られない場合等どう対応すれば、よりよい支援に繋がるのか。

(2) 地域生活支援拠点等整備について

- ・当事者の声について地域の人に共通認識を持っていただくために、「相談すべき場所」、「相談することの重要性」を多くの人に強く発信し、関係性を構築することで地域で支え合える仕組みを考えていきたい。
- ・避難所等で障害者理解がないと、「特別扱いしている」と思われることがある。また、新型コロナウイルス感染症では濃厚接触者を特定するにあたり、施設での活動が一般化されていないため説明が伝わりにくい。緊急時こそ地域全体で相互に協力し合えるよう、障害と障害者への理解を深められるよう、情報を発信するための「土壌」や「場」を整備していく必要性がある。
- ・障害者就労支援センターでは現在約200人程度の登録があり、支援を充実させていく必要性はあるものの、支援に必要な人員確保で難しい面もある。
- ・障害のある方の高齢化や重症化について、具体例などを示し普及していくことが必要。

(3) 感染症対応について

- ・障害者を支援する施設内での感染症対策の中ではゾーニングやソーシャルディスタンスを保つなど物理的な対応をすることが重要であり、支援員の数が今までより必要になってきたという課題がある。

(4) 防災、災害時の対応について

- ・ライフラインの確保をはじめ、家族等の連絡の取り方や安否確認方法など、災害時に必要な防災資源について把握することが重要。

第3回部会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し、書面開催とした。

書面開催では、部会の報告書（案）を示すとともに、第2回部会の議事要旨を参考に、以下5つの点について意見をいただいた。

①生活を送るうえでのサービス及び支援体制について

- ・親亡き後や障害者自身の高齢化、また支援者が変化する中で一定水準のサービスを継続して受けるには、個人情報保護や守秘義務の観点を尊重ながら「時期・内容・相手」等収集すべき点を整理し、情報収集ガイドラインを作成する必要がある。
- ・家族全体へ支援することが障害者自身への支援に繋がる。家族の高齢化や障害者自身の重度化に備え、早期に支援内容等の情報提供を行うことや家族及び障害者の情報を収集し、共有していくことが必要。
- ・年齢や障害程度に関わらず利用できるグループホーム等の施設を整備して欲しい。
- ・ヘルパー等支援の担い手を養成していくことが必要。
- ・在宅支援を可能とする事例を知るための機会があるとよい(座談会等の開催)。
- ・障害特性に対応できるサービスや支援を具体的に対象者に伝えられることが重要。
- ・サービス以外で家族が担っている支援を理解、整理し、細やかなサービス提供を行っていく必要がある。
- ・障害の有無に関わらず理解し合えるよう啓発していきたい。
- ・障害のある人とない人が話し合い、相互に歩み寄り理解することが必要。
- ・セルフヘルプが機能するような支援体制や運営が必要と考えている。

②地域生活支援拠点整備について

- ・障害者やその関係者に地域生活支援拠点がどの程度認知されているのか、またその内容等について共有する場をつくり、地域生活支援拠点が幅広く認知され活用されるような取組を行いたい。

③感染症の対応について

- ・感染症の影響で施設支援員が支援に入れない場合の地域での共助について考えたい。
- ・現状行っている感染症対策を継続していく。

④防災、災害時の対応について

- ・安否確認を含めた家族との連絡手段や方法を「いつ」「誰が」「どのように」行うのか考える必要がある。

- ・自助で備えを行うことの必要性を共有し、備えていくことが必要。在宅であれば、食料配布等の支援も必要と感じる。
- ・先駆的に取り組んでいる事例を知るための機会をつくり、今後の本区での対応に活かしていきたい。

⑤その他

- ・新しく月島にできるグループホームの対象となる方について具体的に示してほしい。

来年度の部会では以下の内容に特に焦点を当てて検討を進めていく。

- ・地域で障害者や障害者世帯を支援するために、多機関、多職種で連携を図る上で必要な情報の収集について対象者や収集する時期、内容、また、情報の取り扱いに関するガイドラインについて
- ・感染症対策によって生じた良い影響と悪い影響について